

会 議 録

会議名	第2回丸亀市総合計画審議会
開催日時	平成29年5月31日（金）13:30～15:00
開催場所	丸亀市役所 本館2階第3会議室
出席者	<p>出席委員 井原理代、森茂、逢坂十美、立山雄一、岩崎正朔、久保田英俊、小池よう子、佐久間知恵、佐々木美紀子、藤田裕子、山下多加子、佐藤常光、直井敏彦、浦山夏穂</p> <p>欠席委員 桑田桃子、森岡翔哉</p> <p>事務局 市長公室長 山田理恵子 （市長公室政策課）課長 山地幸夫、副課長 富士川貴、総括担当長 志村芳隆、主査 宇野大志郎</p>
議 題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 丸亀市総合計画後期基本計画行政評価（内部評価）結果報告書について 2. 個別計画について 3. 第二次丸亀市総合計画策定方針（案）について 4. その他
傍聴者	1名
発言者	議事の概要及び発言の要旨
山地政策課長	ただ今より第2回丸亀市総合計画審議会を開会します。本日の配布資料の確認をさせていただきます。議事の進行は、会長をお願いいたします。
井原会長	<p>議事に入ります前に、本日16名中14名の委員のご出席をいただいておりますので、丸亀市附属機関設置条例の規定に基づき、会議が有効に成立していることをご報告しておきます。</p> <p>まず、議事の1「丸亀市総合計画後期基本計画の行政評価（内部評価）の結果報告」について事務局より説明をお願いします。</p>
政策課 宇野	<資料に基づき説明>
井原会長	<p>こちらの結果報告書については、第二次丸亀市総合計画策定にあたって、今後の参考資料として活用していきたいとのことです。行政の計画は、策定して終わりではなく、こうした検証作業が実施されております。丸亀市の場合、所管課が一次評価、副市長など上位者がさらに二次評価を加えるというダブルスコアにより実施されていますが、それぞれの評価が異なる点など分析が必要かと思えます。また、総じて厳しい評価をされていると感じます。事務局の方で、A～Eまでの5段階評価の基準、分け方をご説明いただけますでしょうか。</p>

政策課 宇野	<p>評価基準は、後期基本計画の計画期間を通して同一の基準となっております。本来は、標準的な評価がCであるべきですが、現行の基準ですと、C評価が「施策の進捗が遅れ気味で、期待したほどの成果が出ていない」ということで、B評価から少しかけ離れた基準となっており、次回の計画策定と合わせて見直す必要があります。</p>
山地政策課長	<p>目標の値以上に成果が出た場合等は、通常A評価となり、B評価はそこまでは達していないといった状況です。事業によっては目標に届いているもの、そうでないものがありますが、施策評価であるため、複数ある事業をおしなべた評価となります。</p>
井原会長	<p>例えば9割程度の達成状況は、この基準ですと、C評価になってくるのでしょうか。B評価との間の部分が抜けているような気がします。5段階のなかで、良しとするのが2段階、問題があるとするのが3段階と、2:3なので、どうしても厳しめに映る部分があるようです。</p> <p>本資料については、今後、骨子や素案を示される段階で、立ち戻って確認するための資料として活用いただければ、よろしいかと思います。</p>
直井委員	<p>この報告書も審議の対象として考えてもよいと思いますが、あくまで参考資料ということでしょうか。</p>
井原会長	<p>あくまでそれぞれの所管課の意見ですので、それを事務局で検討、判断して、今後の骨子等に反映させていきたいということですので、その段階でご審議いただければと思います。</p>
山地政策課長	<p>例えば、昨年度策定した環境基本計画のように、個別計画で先行して成果指標を定めているものもありますが、報告書については、担当課としての現段階の案の成果指標もありますので、事務局として精査したうえで、今後改めて本審議会にお示しし、ご意見をいただければと思います。</p>
井原会長	<p>第二次総合計画が、一次計画と同じ構成になるかどうかもわかりませんので、現段階で個々の成果指標を判断するのは難しいと思います。一次計画を相当部分引き継ぐとは思いますが、今後事務局が案としてまとめたものについて、現在お考えのご意見をいただければと思います。</p> <p>それでは、続きまして議事の2「個別計画」について事務局より説明をお願いします。</p>
政策課 宇野	<p><資料に基づき説明></p>

井原会長	<p>総合計画に係ります個別計画の全体的な概要と、その中でも重要な人口ビジョン・総合戦略につきましてご説明いただきました。人口減少、少子高齢化は避けて通れないのが現実ですが、数ある社会的な統計のなかでも、人口統計が一番正確だと言われています。何も手を打たなければ人口減少が進んでいくという状況と、現在丸亀市が取り組むべき方向性が総合戦略で示されているということでございます。</p>
岩崎委員	<p>先ほど申し上げればよかったですのですが、行政評価（内部評価）報告書のうち、成果指標の推移については、意見を申し上げてもよろしいですか。私自身、丸亀市だけでなく香川県内全域で防災活動を行っていますので、この指標でよいのかというものもあります。</p>
井原会長	<p>素案の段階になると議論ができないと思いますので、次回の骨子の段階で、全体像のなかに成果指標がうまく結びつかなくても、事務局がお考えの成果指標について少しでもお示しいただければと思います。その段階で成果指標が変わったとしても、それが審議会の役目かと思います</p>
山地政策課長	<p>たたき台になるかと思いますが、お示しできればと思います。それをもとに、審議会をはじめ、庁内や市議会など意見をいただきながら、良いものにしていきたいと思っています。</p>
直井委員	<p>人口ビジョン・総合戦略について、高校からの進学時の流出が一番の問題だと思いますが、その具体策が示されていません。県外に進学する場合の経済的負担も、子どもの数に影響していると思います。</p>
山地政策課長	<p>地方都市において全国的に言えることですが、高校卒業時に関東圏や関西圏に転出超過が発生していることが課題となっています。丸亀市での新設の大学は現在のところ予定はありませんが、四国職業能力開発大学校や、香川大学、四国学院大学とも連携しながら、地元の子どものにも進学してもらえよう取り組んでいます。東京一極集中による、地方への大学移転等も国で検討されていますが、少子化など課題が多いようです。こうした動向も踏まえながら、市の取組みとしては、一度転出しても、将来的に丸亀市に戻ってくるような子どもたちを育てる、また、定住に向けた、子どもを生き育てやすい環境づくりなど地道に進めているところです。</p>
井原会長	<p>地方都市全体に言えることですが、各地方に大学が充実すればそれで済むのか、閉鎖的な地域づくりが日本全体としてあり得るのか、どのような対策を行うべきか妙案がないという状況です。例えば、四国学院大学には、善通寺市出身の子どもがどのくらいいらっしゃるのでしょうか。</p>

逢坂委員	<p>数字的に、はっきりとしたことはお答えできませんが、地元の子どももいますし、県外からも多いです。最近では、あまり県外へ出ようとしないう、地元から通いたいという傾向があるようです。</p> <p>別の視点で考えますと、先ほどの総合戦略のなかに昼夜間人口のデータがあります。就職先や大学があれば、昼間にある程度の経済活動はあろうかと思いますが、一方で、四国学院大学の学生で丸亀市に下宿している学生もおり、就職先や学校へのアクセスも関わってくると思いますが、昼間はいないけど、夜間、つまり住んでもらう人を増やすという視点も重要かと思えます。</p>
立山委員	<p>私どもの四国職業能力開発大学校では、県内や四国圏内からの生徒が多く、市内からの学生は少ないのが現状です。丸亀市との連携で、地元就職した場合の生徒へ奨学金返済の一部を助成する制度はございます。</p>
井原委員	<p>大学があれば地域活性化につながるというのは理想的には正しいと思えますが、現実的には色々な要素が絡みます。高等教育機関の運営面から、様々な観点で魅力あるまちづくりにつなげていくことを検討できればよいのではないかと思います。</p>
直井委員	<p>梶市長の公約に大学誘致とありましたので、申し上げたところです。大学を誘致しても、学生が来なければ意味がありませんし、就職先もセットで考えなければいけません。</p>
山田市長公室長	<p>社会増の点で、地元に着するよう市内に大学があればという考えも確かにあります。総合戦略の高校生アンケートでは、県外への進学希望は48%となっていますが、就職は県内にとり割合も30.2%と高くなっています。民間など関係機関とも協力しながら、働く環境を整備、確保し、Uターン、Iターンにつなげるとともに、子育て支援も含めて、丸亀市で働きたい、住みたいという人を増やすという視点の取組みを総合戦略に盛り込んでいます。</p>
森副会長	<p>現在の県内の大学数や、全国の私大の半数以上が赤字経営であるという運営状況を考えますと、新たな大学をとる考えは難しいと思えます。</p>
山下委員	<p>仕事から企業の方に会うことが多いですが、採用活動が難航している、県外に出た学生を採用できないという声をよく聞きます。働き場がないという問題でなく、帰ってきてもらえる取組み、例えば、企業の採用部門の方にアンケートをとったり、帰ってきてくれた方の意見を聞くなど、企業と自治体の協力が必要であると感じます。</p>
久保田委員	<p>総合計画と個別計画の関係の確認になりますが、成果指標を見ましても、総合</p>

	<p>計画が上位計画であれば、個別計画はそれに合わすのが筋だと思いますが、例えば、昨年策定した環境基本計画を見ますと、後期基本計画との整合性はありません。計画期間を見直す必要も感じます。</p>
山地政策課長	<p>後期基本計画で定めた成果指標の平成 28 年度目標値は、平成 23 年度の計画策定時に設定されたもので、達成した目標値は上方修正し、進行管理しています。環境基本計画においては、最新の状況で精査した数値を改めて設定しておりますので、次期計画の策定では、個別計画で見直された内容について、反映していく必要があると考えています。</p>
井原会長	<p>それでは、行政評価報告書も、個別計画も次期計画に活かすという認識のもと、議事の 3「第二次丸亀市総合計画策定方針（案）について」事務局より説明をお願いします。</p>
政策課 宇野	<p><資料に基づき説明></p>
井原会長	<p>市民の意見を幅広く集約したいという点で、若い世代を中心としたワークショップも予定されているようです。本審議会にも、浦山委員、森岡委員が学生の委員として参画いただいておりますので、ぜひ参加して、若い方などいろんな意見を吸い上げてこの場に活かしていただければと思います。</p>
浦山委員	<p>話が食い違うかもしれませんが、策定方針のなかで、市民との容易な共有を可能にする計画を目指す点について、私自身丸亀で生まれ育って、丸亀市がどのような計画に基づいて運営されているのか、正直分かりにくい部分が多いです。私たちの世代は、情報に対して受け身な世代だと思いますので、取り組みが分かりやすい内容になればと思いますし、ワークショップを行う際には、広く学生に伝わるような工夫をして欲しいと思います。</p>
逢坂委員	<p>若い世代に対しては、日ごろから触れるメディア、媒体に配慮する必要があるのだと思います。</p>
井原会長	<p>そうした点に関連して、中讃ケーブルビジョンから佐久間委員に参画いただいておりますが、今回の計画づくりについて、色々と話題にさせていただくのもいかがでしょうか。</p>
佐久間委員	<p>地域の出来事を取り扱っておりますので、告知なども含めて、お手伝いできる部分があるかと思います。</p>
井原会長	<p>それでは、議事の 4「その他」ですが、今後のスケジュールについて、事務局</p>

	より説明をお願いします。
政策課 宇野	<資料に基づき説明>
井原会長	議題は以上になりますが、全体を通して何かございますか。
直井委員	策定方針のなかで、これまで3年でローリングしていた実施計画について、策定するかどうか検討していくとありますが、策定しない方向で考えているのですか。
政策課 宇野	実施計画で定めていた内容を、基本計画にまとめられないかなど、検討している段階です。
直井委員	民間にいた経験からしますと、計画が多過ぎると感じます。効率的な事務の意味でも、中長期の計画が一つあれば、あとは単年度のものであれば十分だと思います。
井原会長	基本構想はまさに丸亀市の目指す将来のために、基本計画はマニフェストとも調整と理解しています。実施計画の点は、なるべくコンパクトな方向を目指すということによろしいですか。
山地政策課長	計画構成については、今後内部調整し、議会等にもご意見をお聞きしながら、決定したいと思います。
井原会長	そのほか、事務局よりございますか。
山地政策課長	報告ですが、総合計画の策定支援ということで、民間のコンサルタント会社に業務を委託しております。計画の策定は、事務局の方で進めていくというスタンスですが、そのうえでデータ分析や見せ方について、専門的なノウハウを活用したいと考えています。本日、担当する業者の方がいらしておりますので、ご紹介します。
	<業者紹介>
井原会長	どうぞよろしくお願いいたします。それでは、以上で本日の会議を終了します。
	(会議終了)